

都市農村交流イベントの活動分析と評価

- 山口県下関市菊川町「貴和の里につどう会」による地域活性化活動の事例研究 その5 -

中山間地域	都市農村交流事業	廃校	正会員	利光 由江*
空き家	空間構成	使われ方	正会員	山本 幸子**
			正会員	中園 真人***
			正会員	渡邊 弘崇*

1. 年間行事基本型の活動分析

本報では前報に引き続き、「貴和の里につどう会」のイベントの観察調査結果をもとに、分類した6タイプの典型事例を抽出し、活動の内容と空間の使われ方について分析を行う。

まず、「年間行事基本型」について2009年11月1日に開催された芋ほりのイベントの分析を行う。図1に一日のプログラムを示すが、一日のプログラムは朝の挨拶、芋掘り、昼食、片付け分けられる。

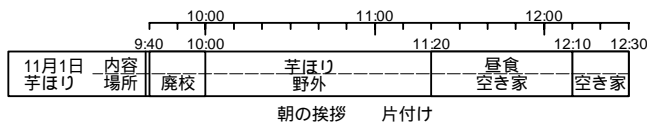


図1 プログラム(芋ほり)

1) 9:30~ 昼食準備(豚汁)

女性スタッフが公会堂の台所で昼食づくりを始める。台所の中央の机で具材を切り、ガスコンロでご飯と豚汁の調理をする。

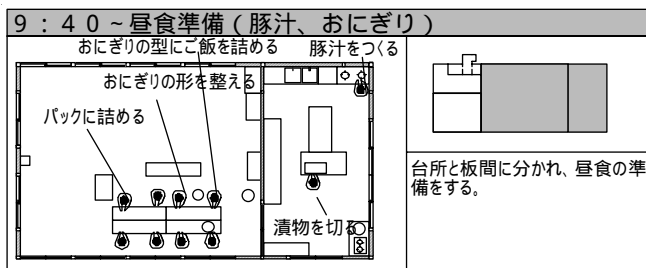


図2 年間行事基本型の活動

2) 9:40~ 昼食準備(おにぎり)

具材を切り終わったら板間の部屋に長机を4台設置し、流れ作業でおにぎりを作る。(図2)

3) 10:00~ 芋掘り

一旦廃校へ集合した後、田へ出発する。参加者は芋掘りを終えた後、貴和の宿に集合する。

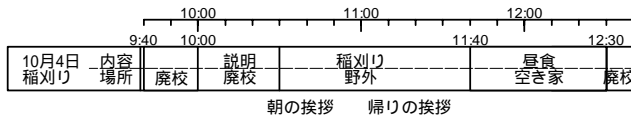


図3 プログラム(稲刈り)

4) 11:20~ 昼食

芋掘りを終えた参加者が貴和の宿に到着し昼食を取る。長机を9台用意し、内1台を使い、公会堂から車で運んできた味噌汁をスタッフがお椀に分ける。台所では洗いものをするスタッフと芋を蒸すスタッフが見られる。参加者は各々食事をとり食べ終わったら廃校へ戻り解散する。

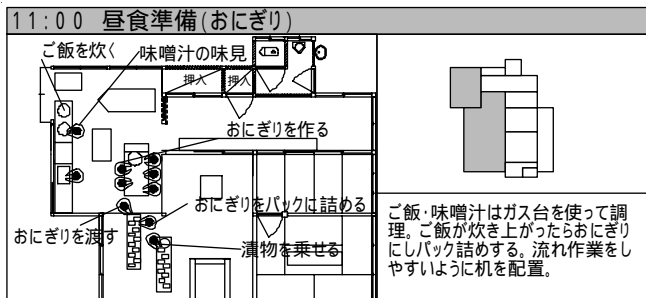


図4 年間行事空家活用型の活動分析

2. 年間行事空き家活用型の活動分析

2009年10月4日の稲刈りのイベントの分析を行う。1日のプログラムの内容は、朝の挨拶、稲刈り、昼食、帰りの挨拶、片付けに分けられる(図3)。

1) 10:30~ 稲刈り

一旦廃校へ集合した後、田へ出発する。参加者は稲刈りをした後貴和の宿に集まる(図4)。

2) 11:00~ 昼食準備(おにぎり)

参加者が稲刈りをしている間に女性スタッフが貴和の宿で47名分の昼食準備を行う。ガス台でご飯、味噌汁を調理する。板間には長机を二台配置しておにぎりのパック詰め作業を行う。

3) 11:30~ 昼食準備(味噌汁)

次に味噌汁の準備を行う。作業がしやすいようにおにぎりを握っていた机の向きを変える。台所中央の机で味

噌汁をつぎ、移動した机の上で皿を拭く。また土間からホースを外へ引き、外で鍋や寿司桶など比較的大きなものを洗う。4畳間に長机を一台だし、トレーにいれたおにぎりや飲み物を配置する。

4) 11:45~ 13:15 昼食

台所で味噌汁をつぎ、外の台に運ぶ。参加者は入り口で味噌汁、おにぎりをもらおうと各々自由に場所を選び、食事をとり、食べ終わったら廃校へ戻る。

3. 年間行事廃校活用型の活動分析

2009年12月1日の餅つきのイベントについて分析を行う。図5に一日のプログラムを示すが、朝の挨拶、餅つき、帰りの挨拶、片付けに分けられる。

場所を区切り、廃校全体を計画的に使っている(図6)。外の手洗い場でもち米を洗うもち米を蒸籠まで持っていき、蒸す三棟のテントに分かれ、餅をつくついた餅をもう一棟のテントまで運び、餅を丸める丸めた餅をトレーに入れて教室2に持っていき並べ、餅をパック詰めする教室2の勝手口からパック詰めした餅を受付の長机まで運び、販売する、という順で図の矢印の方向に作業が進む。その他、大学生による豚汁作りのスペース、焚き木のスペース、飲み物コーナー、長机三分分の地元の野菜販売スペースが設けられている。

4 地域塾基本型の活動分析

典型事例として2009年7月22日、29日、8月5日、19日の4日間の分析を行う。まず図7に4日間のプログラムを示すが、基本プログラムは、朝の挨拶、午前中のプログラム、昼食、昼休み、午後のプログラム、おやつ、掃除、帰りの会の8パターンに区切られる。活動場面の例として7月22日に開催された「森の美術館&ネーチャークラフト」の一日の流れを取り上げる(図8)。

1) 9:20~9:40 受付

校庭の正門側に受付をつくり、スタッフが2名で対応している。スタッフは班番号と氏名が書いた名札を渡し、子どもは一旦教室1のロッカーへ自分の荷物を納めに行く。この日は合計32名の子どもが参加、一班につき6~7名の班を計5班作る。

2) 9:40~9:55 開会式

グラウンドに集合し、開会式を行う。この日は外部から地域福祉施設中村さん家の高校生スタッフが2名と山口県立大学の先生1名が参加。一班につきスタッフが1名つく。班毎に円になり自己紹介を行う。

3) 9:55~11:00 自然観察

班毎に整列、自然観察へ出発し、図に示したルートで集落内を徒歩で移動する。図中のでは野草、田の農作物を説明し、の滝のポイントでは野鳥の観察をする。

では土手付近に立ち止まり、スタッフが皆既日食の説明後、観察する。では空き家を改修して完成した「貴和の宿」を見学する。

4) 11:00~12:10 ネーチャークラフト

廃校に到着後、教室1に集合し、自然観察で観察した風景の絵と、ダンボール、木の実、枝、葉などを使いフォトフレームを作成する。水彩道具を使う子どもは外の手洗い場で水を汲む。約40名近い人数が床で作業をしているため一人ひとりの作業スペースが狭く、移動する際は周りの人、物に注意して動いている姿が見られる。作業が終わった子どもから片付けをして教室の後ろのロッ

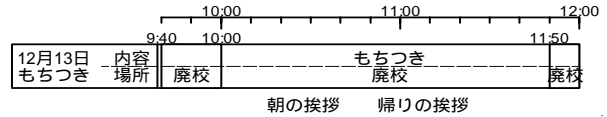


図5 プログラム(もちつき)

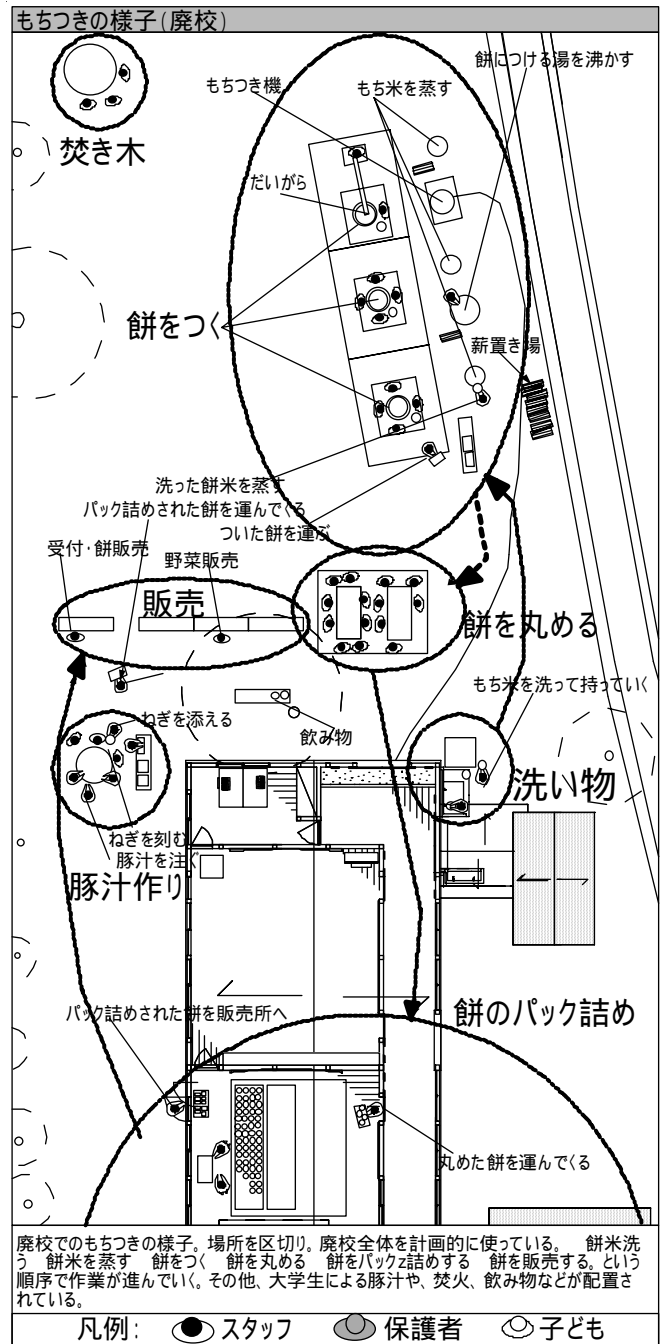


図6 年間行事廃校活用型の活動分析

	10時	11時	12時	13時	14時	15時
7月22日 ネーチャークラフト		自然観察、ネーチャークラフト			発表	遊び
7月29日 雨天により室内遊び		自然についての勉強会、室内遊び			室内遊び	
8月9日 竹でそうめんのすべり台作り		竹の箸作り、そうめん流し			紙芝居 ゲートボール	ゲートボール
8月19日 山犬生と竹のランプ作り		竹のランプ作り			竹のランプ作り、点灯式	

朝のあいさつ 昼食 昼休み おやつ 掃除 帰りの会

図7 プログラム(地域塾)

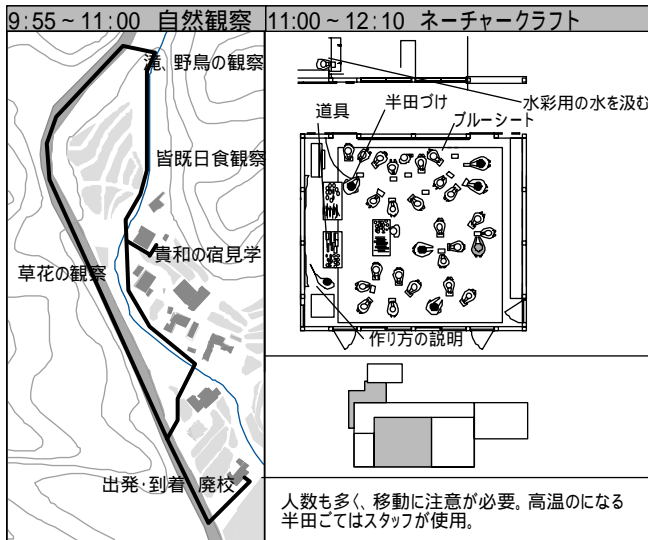


図8 地域塾基本型の活動分析

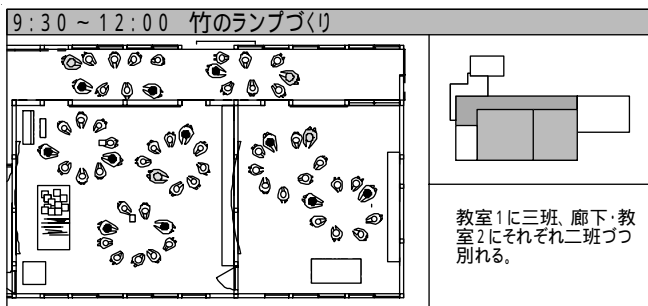


図9 地域塾基本型の活動分析2

カーに荷物を納めた後、廊下に用意された机の上で作品を乾かす。その後教室2で各自自由に遊ぶ。

5) 12:10~13:00 昼食

子どもは教室1のロッカーの中から持参した弁当を持ち各々自由に場所を選んで食事。教室1, 2だけでなく外の木陰で食事を取る姿も見られる。

6) 13:00~14:00 昼休み

グラウンド、教室1、教室2を使って自由に遊ぶ。どの場所にもスタッフが1名以上ついている。グラウンドでは缶ポックリ、竹馬、竹とんぼなど地域の竹を使用して作った道具で遊ぶ姿が見られる。事務室ではスタッフがパソコンで事務作業をしている。

7) 14:00~14:30 作品発表

廊下に置いている自分の作品を取り、教室1に入り、一人ずつ教室の前に出て作品発表をする。進行役のスタッフが発表の手助けを行う。

8) 14:30~15:00 おやつ

スタッフが教室の前でおやつを配る。

9) 15:00~15:20 掃除

教室1、教室2、廊下、便所、玄関の五箇所に分かれて掃除をする。スタッフ、保護者は指導しながら一緒に掃除をする。教室1、教室2、廊下ではスタッフが中心

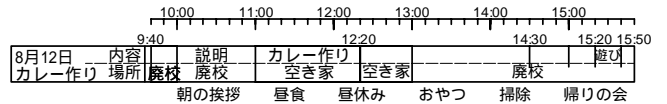


図10 プログラム(カレー作り)

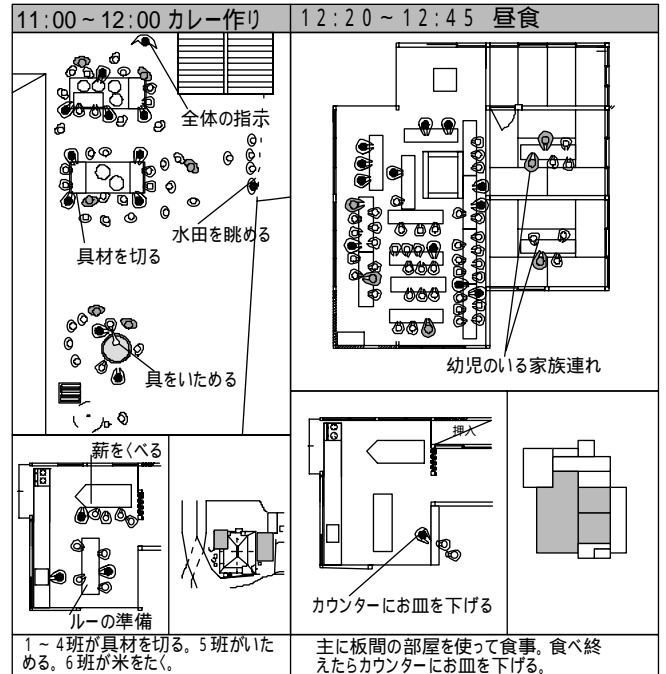


図11 地域塾空き家活用型の活動分析

に箒で床を掃いたあと、子どもが雑巾掛けをする。また、壁や黒板を拭く姿も見られる。玄関まわりは箒で落ち葉を掃き、玄関の靴を整頓する。便所ではスタッフがホースで水を撒き、子どもが便所の床、便器を掃除。手洗い場をたわしで磨く。

10) 15:20~15:40 タオル相撲

終了時間まで時間が余ったため、教室1で室内遊びを行う。二班ずつ二手に別れ、班別対抗のタオル相撲をする。審判役のスタッフが各2名ずつつく。

11) 15:40 帰りの会

教室1に班毎に整列する。会長が次回の地域塾の連絡をし、解散をする。

次に8月19日に開催された「竹のランプ作り」の活動場面を図9に示す。子どもたちは7班に分かれ、教室1に3班、教室2・教室3に2班ずつに別れ、同時進行で作業が行われている。一班につき2名以上スタッフがつき指導を行う。参加人数が多く廊下を作業スペースとして使用しているため、動線が遮られて移動が困難な場面も見られる。また、作り方を示した紙を教室1の黒板に張っているため、廊下、教室2の子どもは手順が理解できず、教えるスタッフが1人の子どもにつきっきりで教えている。

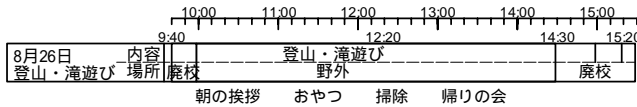


図 11 プログラム（登山・滝遊び）



図 12 登山・滝遊び ルート

5 地域塾空家活用型の活動分析

2009年8月12日の地域塾カレー作りのイベントを分析する。図10に一日のプログラムを示すが、内容は朝の挨拶、午前中のプログラム、昼食、昼休み、午後のプログラム、おやつ、掃除、帰りの会の8パターンに区切られる。

1) 10:20～11:00 移動

廃校に集合し、貴和の宿まで徒歩で移動。途中、牛小屋で牛の見学をする。

2) 11:00～12:00 カレー作り

貴和の宿玄関前の広場で班毎に整列をさせ、スタッフが班毎の分担分けを指示する。外の水道で手を洗い、作業を開始する。

玄関前に調理台を2台出し、1～4班が具材を切る。5班が具材を大なべで炒める。6班は室内の台所で釜戸を使い米を炊く。具材を切る際に包丁を使うため、スタッフと子どもの2人で作業をする。

3) 12:00～12:20 食事準備

作業の終わった子どもは土間の椅子、踏み台に座り、待機している。縁側に重ねてある長机をスタッフ、保護者が板間に並べ配置する。カレーのルーを外の釜から小さい鍋に移して台所へ運ぶ。台所と板間の境を使い、カレーの準備を行う。子どもは土間から板間へあがり、カレーを受け取り奥から順に座っていく。

4) 12:20～12:45 昼食

全員席に座ってから食事をとる。幼児のいる家族連れのグループは隣の6畳間で食事をとっている。食べ終えた班から台所と板間の間に設けられた配膳棚に皿を下げる。班のリーダーが自分の班の班員を廃校まで連れて帰り、廃校に帰った班から昼休みに入る。

6 地域塾野外活動型の活動分析

2009年8月26日の登山・滝遊びのプログラムを図11に示す。内容は、朝の挨拶、登山、おやつ、掃除、帰りの会の5パターンに区切られる。

まず参加者は廃校に集まり、挨拶・登山の説明の後マイクロバスに乗り、登山道の入り口まで移動する。そこから登山を開始し、途中で旧集落での昼食を挟み、滝で水遊びをする。その後登山を終え、マイクロバスで廃校まで帰り、廃校でおやつ・掃除・帰りの会の後解散をする。(図12)

7. 結論

7.1 公会堂・廃校・貴和の宿の評価

活動観察調査結果をもとに、各施設について空間的な機能評価と課題を以下に整理する。

- 1) 公会堂について、台所は面積も広く、大人数の食事を調理するための設備・道具も整っているため、イベント時の昼食の調理スペースとして使用する際には効率が良い。しかし、昼食を車に乗せ廃校まで運ばなければならない、移動に手間がかかっている。
- 2) 廃校について、校庭は十分な広さがあるため、活動を展開しやすい。一方で室内は2教室が壁で仕切られているため、大人数での作業には面積が小さい。また工作をするイベントが多いにもかかわらず、机がないため床で作業をせざるを得ない。特に教室2は面積が狭く、使われる機会が非常に少ない。
- 3) 貴和の宿について、室内を板張りのワンフロアに改修したことにより、大人数の食事が可能な空間を有す。しかし、台所の機能が乏しく面積も狭いため、大人数の食事を調理することが困難で、調理台を移動して対応せざるを得ない場面も見られた。今後の事業目的である子どもの農家住宅宿泊体験を行うためには台所設備の充実及び浴室の増築を検討する必要がある。

7.2 今後の課題・展望

樫の木・道市・轡井集落には今回改修した空き家の他にも4～5件の空き家確認されており、それらの実測調査をし、都市農村交流事業の新たな活動場所として整備を行う計画が立てられている。具体的には都市住民のための週末住宅の提案が計画されている。

都市農村交流事業を進めていく上での今後の課題としては、空き家の設備の充実と廃校の内部空間の整備を進め、さらなるイベント内容の充実を図ることである。

謝辞

本研究は「貴和の里にどう会」の皆さまからの多大なるご支援・ご協力をいただきました。末筆ながら厚く御礼申し上げます。

* 山口大学工学部感性デザイン工学科 学部生

** 山口大学大学院理工学研究科 助教・博士（工学）

*** 山口大学大学院理工学研究科 教授・工博

* Undergraduate, Dep. of KANSEI Design Eng., Faculty of Eng., Yamaguchi Univ.

** Assistant Professors, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.

*** Professor, Yamaguchi Univ., Dr.Eng.